

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																		
中央工科デザイン専門学校		平成10年3月20日	中島 利郎		〒371-0844 群馬県前橋市古市町1-48-1 (電話) 027-255-3544																		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																		
学校法人有坂中央学園		昭和40年12月24日	中島 利郎		〒371-0844 群馬県前橋市古市町1-49-4 (電話) 027-256-7000																		
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																	
工業	工業専門課程	デジタルデザイン学科			平成19年文部科学省 告示第20号																		
学科の目的	商品パッケージ、印刷、出版(電子書籍含)、広告、映像、Webに関わるデザイン分野等で活躍できる人材の育成。様々なデジタルデバイスに対応したデザイン技術や映像処理ができる技術を身につけ、実学を通して企業のニーズに適した企画提案のできる人材を育成をする。																						
認定年月日	平成26年3月31日(告示第59号)																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
	2年 昼間	1860時間	390時間	690時間	1440時間	0時間	0時間																
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
90人		17人	1人	2人	4人	6人																	
学期制度	■前期: 4月1日~9月30日 ■後期: 10月1日~3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 受講態度及び定期試験、提出物等を総合的に判断し評価する。																			
長期休み	■学年始め: 4月 1日 ■夏季: 8月 9日~9月7日 ■冬季: 12月17日~1月9日 ■学年末: 3月31日		卒業・進級条件	所定の修業年限以上在学し、課程を修了した者																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者への指導については、随時連絡を取り、面談指導を行う		課外活動	■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 部活動、ボランティア活動、各実行委員(学園祭、スポーツ大会、卒業制作展、謝恩会、卒業アルバム) ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業者に関する平成30年5月1日時点の情報)																			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 印刷・デザイン業界、一般企業の企画開発部、インターネット事業部等		主な学修成果(資格・検定等) ※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Illustrator能力認定試験エキスパート</td> <td>③</td> <td>18</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>Photoshop能力認定試験エキスパート</td> <td>③</td> <td>18</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>24</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	Illustrator能力認定試験エキスパート	③	18	9	Photoshop能力認定試験エキスパート	③	18	9	色彩検定3級	③	24	21
	資格・検定名	種別		受験者数	合格者数																		
	Illustrator能力認定試験エキスパート	③		18	9																		
	Photoshop能力認定試験エキスパート	③		18	9																		
	色彩検定3級	③		24	21																		
■就職指導内容		担任と就職指導センター職員による、面接指導や履歴書の書き方指導を実施。就職相談、カウンセリングなどの個別相談にも対応している。																					
■卒業者数		24人																					
■就職希望者数		21人																					
■就職者数		21人																					
■就職率		100%																					
■卒業者に占める就職者の割合		87.5%																					
■その他		・進学者数: 0人 ・就職を希望しない学生3名は、クリエイター活動のためアルバイト																					
(平成29年度卒業者に関する平成30年5月1日時点の情報)																							
中途退学の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0% 平成29年4月1日時点において、在学者41名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者41名(平成30年3月31日卒業者を含む)		■中途退学の主な理由 (例) 学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等																				
■中退防止・中退者支援のための取組 (例) カウンセリング・再入学・転科の実施等 個人面談、クラスアンケートにより学生とコミュニケーションを取り、随時対応している。																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 有坂奨学金制度: 社会人入試で受験した学生を対象に、資格取得や専門知識・技術を習得し、新たな目標の実現を考えている者に対して、学園が年間10万円の奨学金を支給する制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 給付対象者: 1名(在学中)																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科のホームページURL	http://www.chuo.ac.jp/cit/dd.html																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学科は職業実践の推進を図ることを目的に、中央工科デザイン専門学校と企業等が有する知識・技術・技能を統合し、産学の連携を推進する事により、人材の専門性を向上させ、地域の産業振興や社会貢献を図り、実務実践能力の育成に資することを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

委員会は学校長の統括のもとに、カリキュラム委員会の下部に属し、本校の教育体制及び教育制度の改善・整備に関する実現方策等の検討を行い、取りまとめると共に、次に掲げる事項について審議及び連絡調整を行う。また、委員会で作された意見は、カリキュラム委員会において検討し、教育課程へ反映される。

- (1)授業科目の開設に関する事項
- (2)授業内容に関する事項
- (3)授業方法の改善・工夫に関する事項
- (4)教員の実務研修に関する事項
- (5)学校関係者評価に関する事項
- (6)その他学科及び専門学校の教育に関する事項

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年6月30日現在

名前	所属	任期	種別
渡邊 隆	(公社)日本パッケージデザイン協会 事務局長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	①
富沢 充芳	朝日印刷工業株式会社		③
中島 利郎	中央工科デザイン専門学校 学校長		
五十部 昌克	中央工科デザイン専門学校 副校長		
高麗 淳子	中央工科デザイン専門学校 デジタルデザイン学科長		
高橋 由美	中央工科デザイン専門学校 デジタルデザイン学科		
柴田 智宏	中央工科デザイン専門学校 教務事務		
笠原 文男	中央カレッジグループ 教育本部副本部長		
金田 行正	中央カレッジグループ 就職指導センター所長		
篠原 賢二	中央カレッジグループ 広報管理部 部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回(原則 7月または8月・1月または2月)

(開催日時)

平成30年度 第1回 平成30年7月19日 18:00～19:00開催予定

平成30年度 第2回 平成31年1月31日 18:00～19:00開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・企業との連携を更に充実させ、実践的な技術を幅広く習得させるべきとの意見を頂いた。

→企業が幅広く提案している、100枚の写真やデザインを本にするという企画に参加し、12冊の本を作成することができた。今後も継続してこの企画を進めるが、50枚の写真やデザインを本にするという企画もあることから、どちらで進めるかは今後決めていきたい。

・朝日印刷様で実施している講座があるので、そちらを4月以降の授業の中で実施できるよう調整する

## 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

### (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

専修学校の教育を施すにふさわしい授業科目を開設し、学生の指導や学修成果の評価等に関する連携体制を確保して、最新の業務を的確に反映した教育を行なう。企業等が学習活動に関わり、学習者と企業等が相互理解を深められる学習機会とする。

### (2)実習・演習等における企業等との連携内容

企業と協定を結び、シラバス(講義概要 目的・指導方法・評価方法)に学習内容を掲載し、指導内容を明確にして授業を行う。学生の理解度を把握するために、随時アンケート・テストを実施する。

### (3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
コミュニケーションデザインⅢ	この授業では、商品開発、マーケティング、ブランディングなど様々なコミュニケーションを設計する手法を学ぶ。一つの手法としての印刷媒体を学ぶため、朝日印刷工業(株)の印刷工場、オフィスを見学し、印刷会社における仕事内容、印刷工程を学習する。デザイン業界の仕事内容が具体的にわかることで、日々の授業で学習していることの重要性を再確認し、意欲の向上を図る。また、授業の最後にテストを行い、学習した内容の習熟度を確認する。	朝日印刷工業株式会社

## 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

### (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

研修規定を定め、実務に関する知識・技術・技能の向上と指導力の向上を目指した研修を実施する。また、階層別研修やOJTによる組織的な人材育成の取組を支援するとともに、教員の学ぶ意欲や向上心を喚起する魅力ある研修を実施し、職員の自己啓発意欲を高める。

### (2)研修等の実績

#### ①専攻分野における実務に関する研修等

・平成29年11月28日、11月30日「公立大学、私立大学産学連携事例発表会」対象デジタルデザイン学科教員1名  
群馬県内の公立大学、私立大学・短期大学による産学連携の事例発表を聞き、デジタルデザイン学科で積極的に取り組む産学連携の手法やプレゼンテーション、ビジュアル面など参考できる内容を吸収した。

・群馬大学との可搬式緑化ベンチデザインプロジェクトの共同研究 対象:デジタルデザイン学科教員1名  
2年目のプロジェクト。暑さ対策用に移動できるミスト付き緑化ベンチを群馬大学と共同研究。デザイン担当の職員は、スクリーン素材を生成する企業「(株)吉田隆」と緑化ベンチの上部に設置するスクリーンデザインを研究。緑化ベンチの利用方法等も含めて、掲載情報の精査と外国人観光客を含めた万人が見て分かるデザインの開発を進めている。

#### ②指導力の修得・向上のための研修等

・平成29年8月10日「インストラクショナルデザイン入門 eラーニング」対象:デジタルデザイン学科教員1名  
全国専門学校教育研究会主催のeラーニングでの受講。最適な教育効果を上げる方法の設計を行う考え方である、インストラクショナルデザインを使い、コマシラバス作成時の課題を考える研修を受講。

・平成29年12月22日「年末発表会」対象:職員全体  
グループ各校から今年度の実践事例を聞き、学生指導の参考にする研修を受けた。

・平成30年3月22日「人工知能で変わる社会・ビジネス」対象:職員全体  
事業創造大学院大学から講師(副学長 黒田達也 氏)を招き、AIが今後社会にもたらす変革について、これからどのような人材が社会から求められるかを聞き、学生指導の参考にする研修を受けた。

・平成30年3月22日「進学環境の変化を踏まえた、学生募集・教育を考える」対象:職員全体  
(株)進研アドから講師(専門学校事業部長 深堀雅樹 氏)を招き、18歳人口が減少するこれからのにおいて、専門学校が行うべき教育について考える研修を受けた。

### (3) 研修等の計画

#### ① 専攻分野における実務に関する研修等

・平成30年8月「ICT活用による教育力向上のための研修」 対象:デジタルデザイン学科教員1名  
国内外の教育現場におけるICTの活用事例について触れ、様々な教育課題に対してICTを活用して、どのように解決しているかを学ぶ。さらに、「Webアプリ制作」の授業を学生目線で体験し、自身の担当授業に活かす気づきを発見して、今後の指導に繋げる。

・群馬大学との可搬式緑化ベンチデザインプロジェクトの共同研究 対象:デジタルデザイン学科教員1名  
今年で3年目になるプロジェクト。暑さ対策用に移動できるミスト付き緑化コベンチを群馬大学と共同研究。デザイン担当の職員は、緑化ベンチの上部に設置するスクリーンデザインを研究。緑化ベンチの利用方法等も含めて、掲載情報の精査と外国人観光客を含めた万人が見て分かるデザインの開発を進めている。

#### ② 指導力の修得・向上のための研修等

・平成30年8月「障害を持つ学生への対応について」 対象:職員全体  
障害を持つ学生に対する対応について、障害者手帳について認識や就職活動など、担任業務として必要なことを学ぶ研修。

・平成30年12月「年末発表会」 対象:職員全体  
グループ各校から今年度の実践事例を聞き、学生指導の参考にする研修。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

#### (1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価を行い、その結果の公表・説明を保護者や業界関係者等の学校関係者に行うことで、適切に説明責任を果たす。保護者や地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

#### (2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	専門分野の特性、学校の理念、目的、育成人材像、将来構想
(2) 学校運営	目的に沿った運営方針、事業計画、規定、コンプライアンス、情報公開
(3) 教育活動	教育課程の編成・実施方針、工夫、開発、外部評価、判定基準
(4) 学修成果	進学率、就職率、資格取得率向上、退学率低減
(5) 学生支援	経済支援体制、健康管理、生活環境支援、卒業生支援、職業教育取組
(6) 教育環境	施設設備の整備、教育体制の整備、防災体制の整備
(7) 学生の受入れ募集	募集活動、教育成果の伝達
(8) 財務	財政基盤、予算収支計画、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	設置基準の遵守、適正な運営、問題点の改善、自己評価公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献活動、ボランティア活動、公開講座、教育訓練
(11) 国際交流	留学生の受入・派遣、国内外での評価

※(10)及び(11)については任意記載。

#### (3) 学校関係者評価結果の活用状況

・社会のニーズを踏まえた、新たな知識・技術を提供する機会を拡充すると共に、学生個々の能力に応じた個別指導や効率的な補習などを実施していく。  
・学生作品を見たいとの声があり、図書室やネット上で閲覧ができるようにした。今後は作品数を継続して増やしていく。  
・卒業生への就業状況アンケートの実施。より多く返信してもらえるための手法の検討を行い、得られた情報はカリキュラム等に反映していけるよう進めている。  
・学園祭、卒業作品展などでより多くの学生作品の展示を行うため、卒業生や1年生の作品なども展示できるよう展示スペースの検討を行う。多くの人に作品を見てもらうことで、学生の作品制作へのモチベーションや質の向上に繋げたい。  
・著作権や肖像権など、作品制作において気を付けなければならない権利関係の学習について、カリキュラムに反映できるよう検討する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年6月30日現在

名前	所属	任期	種別
松本 州史	東京理器株式会社 代表取締役	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	企業等委員
森井 勝利	群馬漫画連盟 会長		企業等委員
宮野 知代	デザインスタジオ絵組 代表		企業等委員
矢島 達也	クシダ工業株式会社		企業等委員
石川 直哉	中央工科デザイン専門学校 卒業生		卒業生
中野 京子	中央工科デザイン専門学校 保護者会 副会長		保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <http://www.chuo.ac.jp/cit/syokugyoujissen.html>

公表時期: 学校関係者評価委員会実施後の1か月以内を目途に公表する。

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本学は、情報公開等の推進を進め、国民や社会に対する説明責任を重視した、社会に開かれた専門学校を目指しています。そのため、教育・研究、組織・運営、人事、財務など本学の諸活動全般に関する情報を、社会に対し積極的に提供します。情報の提供は、本学ホームページへの掲載及びその他冊子などの発行、閲覧の申し出により行います。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の教育・人材育成の目標、指導計画、経営方針
(2) 各学科等の教育	入学者数、収容定員、在学生数、カリキュラム、進級・卒業要件
(3) 教職員	教職員数、組織、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組、実習実技等の取組、就職支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
(6) 学生の生活支援	中途退学、心身の健康、留学生支援、障害者支援
(7) 学生納付金・修学支援	金額、納入時期、経済的支援措置、
(8) 学校の財務	事業報告、貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価、改善方策
(10) 国際連携の状況	留学生の受入、外国の学校との交流
(11) その他	厚生施設の案内

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.chuo.ac.jp/cit/syokugyoujissen.html>

↑ ホームページ内ページ最下部「情報提供方法一覧」にて、ガイドラインの各項目別に情報提供方法を記載している。

## 授業科目等の概要

(工業専門課程デジタルデザイン学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			Webデザイン	Webコンテンツ作成に必要なHTML/CSSの知識を学び、基礎的なHTML/CSSのコーディング技術の習得および資格取得を目的とする。	1 前	30	1			○	○		○		
○			パソコン実習	Mac版 Office 2016 (Excel、Word、PowerPoint、Outlook) の基本操作になれる。	1 前	30	1			○	○		○		
○			ビジネス実務	一般常識や心構え、ビジネスマナーなどの知識を得ることを目的とする。	2 前	30	1	○			○		○		
○			社会常識基礎	大人として必要な常識や心構え、ビジネスマナー、人間関係を築くための意思伝達スキルの習得を目的とする。	1 前	30	1	○			○		○		
○			DD学科卒業制作・研究Ⅰ	テーマ設定から作品の発表・展示までを行い、制作過程を通じて問題解決能力を養うことを目的とする。	2 前	60	2			○	○		○		
○			DD学科卒業制作・研究Ⅱ	テーマ設定から作品の発表・展示までを行い、制作過程を通じて問題解決能力を養うことを目的とする。	2 後	60	2			○	○		○		
○			DDゼミⅠ	デジタルデザイン学科のゼミは、検定対策及びコンテストの作品制作・ポートフォリオなど個別対策を行う。	1 前	60	2			○	○		○		
○			DDゼミⅡ	デジタルデザイン学科のゼミは、検定対策及びコンテストの作品制作・ポートフォリオなど個別対策を行う。	1 後	60	2			○	○		○		
合計			8科目		360単位時間 (			12		単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が20日以下の者。②卒業基準の鑑定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(工業専門課程デジタルデザイン学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			DDゼミⅢ	デジタルデザイン学科のゼミは、検定対策及びコンテストの作品制作・ポートフォリオなど個別対策を行う。	2前	60	2	○			○				
○			DDゼミⅣ	デジタルデザイン学科のゼミは、検定対策及びコンテストの作品制作・ポートフォリオなど個別対策を行う。	2後	60	2	○			○				
○			DTP概論Ⅰ	デザインツールの基本的な使用方法や、次世代デバイスに対応するデジタルパブリッシングの手法を学ぶ。	1前	30	1	○			○				
○			Illustrator実習(Mac)Ⅰ	イラストレーターの基本的なオペレーションを中心に2Dデザインの基本を習得する。	1前	60	2			○	○				
○			Illustrator実習(Mac)Ⅱ	イラストレーターの応用的なオペレーションを中心にデザイナーとしての実践的なスキルを身につける。	1後	60	2			○	○				
○			Photoshop実習(Mac)Ⅰ	Photoshopの基本操作を学習し、色調補正やペイント系ツールの使い方、画像合成技術など、幅広い知識・技術を習得する。	1前	30	1			○	○				
○			Photoshop実習(Mac)Ⅱ	Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダード向けの学習を行うと共に、画像処理技術を向上させることを目的とする。	1後	30	1			○	○				
○			Webデザイン応用Ⅰ	Web上の文書の構造を記述するHTMLと見た目・装飾を記述するCSSの基本を理解し、Webサイトを制作する技術を身につける。	1前	60	2			○	○				
合計					8科目		390単位時間 (					13 単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が20日以下の者。②卒業基準の鑑定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



## 授業科目等の概要

(工業専門課程デジタルデザイン学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			アイデア発想法	HTML5・CSS・Javascriptを用いて、オリジナルスマートフォンアプリケーションを開発する。	1 前	30	1			○	○		○		
○			映像写真技術	デジタル写真を撮影しながらカメラの特性や構図などを学習し、仕事に活かす知識を得ることを目的とする。	2 前	30	1			○	○		○		
○			広告マネジメントⅠ	マーケティングからSEOなど様々な視点からセールスプロモーションに関わるマネジメント力を身につける。	1 前	30	1	○			○		○		
○			広告マネジメントⅡ	マーケティングからSEOなど様々な視点からセールスプロモーションに関わるマネジメント力をより深く身につける。	2 前	30	1	○			○		○		
○			コピー&シナリオⅠ	広告やウェブなど、商品や店舗を説明する文章を考える。どのように書くと売れるのか、どうすれば価値が伝わるのか、ポイントを押さえた学習を行う。	2 前	30	1	○			○		○		
○			コピー&シナリオⅡ	広告やウェブなど、商品や店舗を説明する文章を考える。どのように書くと売れるのか、どうすれば価値が伝わるのか、ポイントを押さえた学習を行う。	2 後	30	1	○			○		○		
○			コミュニケーションデザインⅠ	プロモーションやブランディングなどの広告展開、商品開発など、主要なコンテスト等を活用しながら実践的な考え方を学習する。	1 前	60	2			○	○		○		
○			コミュニケーションデザインⅡ	プロモーションやブランディングなどの広告展開、商品開発など、主要なコンテスト等を活用しながら実践的な考え方を学習する。	1 後	60	2			○	○		○		
合計				8科目	300単位時間 (			10		単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が20日以下の者。②卒業基準の鑑定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程デジタルデザイン学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーションデザインⅢ	プロモーションやブランディングなどの広告展開、商品開発など、主要なコンテスト等を活用しながら実践的な考え方をより深く学習する。	2前	60	2	○			○	△	○	△	○
○			コミュニケーションデザインⅣ	プロモーションやブランディングなどの広告展開、商品開発など、主要なコンテスト等を活用しながら実践的な考え方をより深く学習する。	2後	60	2	○			○		○		
○			ポートフォリオ実習Ⅰ	デザイン・広告・出版・印刷業界への就職には必要不可欠なポートフォリオ（作品集）の制作を業界研究を中心に行う。	1後	30	1	○			○		○		
○			ポートフォリオ実習Ⅱ	デザイン・広告・出版・印刷業界への就職には必要不可欠なポートフォリオ（作品集）の制作を業界研究を中心に行う。	2前	30	1	○			○		○		
○			色彩基礎	色の基本的な体系理論をテキストや配色カードを使って理解し、色彩の実用価値や効果を色彩検定3級をめざし学習する。	1前	60	2	○			○		○		
○			編集概論Ⅰ	雑誌等の編集者としての基本的な考え方、知識をしっかりと身に付けることを目的とする。	1前	30	1	○			○			○	
○			編集概論Ⅱ	雑誌等の編集者としての基本的な考え方、知識をしっかりと身に付けることを目的とする。	1後	30	1	○			○			○	
	○		3DCG実習Ⅰ	Autodesk Mayaを利用した3DCGモデル制作の基本フローを学習する。	1前	30	1			○	○			○	
合計				8科目	330単位時間 ( 11 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が20日以下の者。②卒業基準の鑑定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(工業専門課程デジタルデザイン学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			AfterEffects実習	映像編集・合成ソフトAfterEffectsを使用し、動画作品の制作に必要とされる能力を養う。	1前	30	1			○	○		○		
○			DTP概論Ⅱ	デザインツールの応用的な使用方法や、次世代デバイスに対応するデジタルパブリッシングの手法を学ぶ。	2後	30	1	○			○		○		
○			DTP概論Ⅲ	デザインツールの応用的な使用方法や、次世代デバイスに対応するデジタルパブリッシングの手法をより深く学ぶ。	2後	30	1	○			○		○		
○			Illustrator 応用実習 (Mac)	Illustratorの応用やinDesignの操作を行うことで、デザインへの知識と技術の幅を広げることを目的とする。	1後	30	1			○	○		○		
○			MACデザイン 実習Ⅰ	Illustratorを通してグラフィック・デザインの基本的なオペレーションの習得を目標とする。	1前	60	2			○	○			○	
○			MACデザイン 実習Ⅱ	デザイナーとしての実践的なスキルや考え方を習得する。補足的にInDesignの知識や技術も学習する。	2後	60	2			○	○			○	
○			MACデザイン 実習Ⅲ	デザイナーとしての実践的なスキルや考え方を習得する。補足的にInDesignの知識や技術も学習する。	2後	60	2			○	○			○	
○			Photoshop応 用実習 (Mac)	Photoshopの応用的なオペレーションを中心にデザイナーとしての実践的なスキルを身につける。	2前	30	1			○	○		○		
合計			8科目		330単位時間 (			11		単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が20日以下の者。②卒業基準の鑑定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(工業専門課程デジタルデザイン学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			Webデザイン 応用Ⅱ	WEBサイトを制作するためのアプリケーションやデザインを構築する方法を学び、htmlやwordpressでサイトを作成する技術を身につける。	2 前	60	2			○	○		○		
○			Webデザイン 応用Ⅲ	WEBサイトを制作するためのアプリケーションやデザインを構築する方法を学び、htmlやwordpressでサイトを作成する技術を身につける。	2 後	60	2			○	○		○		
○			映像編集 (AfterEffects)Ⅰ	映像編集・合成ソフトAfterEffectsを使い、モーショングラフィックス・VFXの基礎を学ぶ。	2 前	60	2			○	○		○		
○			映像編集 (AfterEffects)Ⅱ	PV等のオリジナル映像制作を行い、表現手法や視覚表現力の向上をめざす。	2 後	60	2			○	○		○		
○			総合デザイン 実習Ⅰ	Macの基本的なオペレーションを中心にイラストレーターやパッケージデザインの基礎を習得する。	1 前	60	2			○	○		○		
○			総合デザイン 実習Ⅱ	Macの基本的なオペレーションを中心にイラストレーターやパッケージデザインの基礎を習得する。	1 後	60	2			○	○		○		
○			総合デザイン 実習Ⅲ	自分のイメージやスケッチを自在にパソコン上に表現できる力を養う。デザインする力を身につけ、デザイナーとしての考え方を学ぶ。	2 前	60	2			○	○		○		
○			デザインデ ザン実習	デザインや造形の基礎となるデッサンの基本を学び、細やかな表現力と構図のとり方を身につけることを目的とする。	1 後	60	2			○	○		○		
合計				8科目	480単位時間 (				16	単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が20日以下の者。②卒業基準の鑑定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(工業専門課程デジタルデザイン学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			プロダクトデザイン企画Ⅰ	製品におけるデザインの果たす役割を理解し、ものづくりに対して幅広い視点を持って取り組む姿勢の必要性を学習する。	1 前	60	2	○			○			○	
○			プロダクトデザイン企画Ⅱ	製品におけるデザインの果たす役割を理解し、ものづくりの過程と奥深さ、企画立案とコンセプトの重要性を学習する。	2 後	60	2	○			○			○	
○			映像制作・編集実習Ⅰ	映像の歴史や理論を学び、映像を制作する上での考え方や決まり事などを学ぶ。映像制作の手法（撮影・編集・仕上）についても学習する。	1 前	60	2			○	○			○	
○			映像制作・編集実習Ⅱ	映像製作を学び、実作的訓練を行う。特に編集技術に関しては複数のソフトの特徴を理解し、クオリティの高い作品制作を学ぶ。	2 後	60	2			○	○			○	
○			色彩応用	実践的な色彩配色を学び、色彩検定2級取得を目的とする。	1 後	30	1	○			○			○	
○			造形実習	様々なアナログの表現手法で作品制作を行うことで、自らの発想を具現化する学習を行う。	2 後	60	2			○	○			○	
合計				6科目				330単位時間 (			11	単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が20日以下の者。②卒業基準の鑑定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。